



古河 建規
SOLIZE
取締役社長



昌子 久仁子
テルモ
取締役上席執行役員

それでもゴルフは やめられない

不覚だった。

頸椎ヘルニアを発症してしまった。

初めてのことである。右手が、右肩が、右肩甲骨がなんとも痛い。この痛みは何に例えればよいのであろうか。

思えば半年前から前兆があった。右手がしびれるのである。

春になり、マスターズのシーズンが到来した。ソファの肘掛けを枕代わりに寝そべて、夜な夜な楽しんでた。と、その夜、肩甲骨あたりがしびれるような何ともいえない痛みがある。湿布でも貼れば大丈夫かな、と安易に考えていたが、翌朝からいけなかった。何ともし難くなったのである。

MRIを見た医者から“見事な頸椎ヘルニアですね”とのこと。痛みで何事にも集中できないし、夜も寝られない、何よりマスターズを見ていられないのである。頸椎カラー（首輪。頸椎を固定するための医療器材）をして、姿勢を正して、痛み止め、神経修復剤と筋弛緩剤。あとは飛び出した椎間板が収縮するのを待つしか治療法はない、とのことだった。

6カ月たったころ、医者が反対しなかったので首輪をしながら恐る恐るゴルフのラウンドをしてみた。何とか当てるのが精いっぱい。首輪はじゃまだし、筋力低下は著しい。それ以上に首への負担が頭をよぎる。悪化したらどうしよう……。

しかしながら、ゴルフへの想いはその不安に勝り、ついにこの日を境に月一ゴルフファーに復帰したのである。

それからは新たな悪戦苦闘の日々となった。筋力低下のためか、ますますドライバーが飛ばなくなり、少なく見積もってもこれまでの30ヤードはショートする。アイアンはどこに飛んでいくか分からない。ボールをお願いするばかりである。

かつて何かの本で“DON'T CHANGE GEAR. GEAR IS NOT TOY”と読んで以来、私はその信奉者になっていた。ドライバーをここ7年替えていなかった。道具の進歩を超えたところにプレーの技術は存在すると信じていた（信じ込もうとしていた）のである。

が、かくいう私もこの現実を直視しないわけにはいかない。やはりここは道具の進歩にすがらざるを得ないと決心した。

そしてついに“これは飛ぶ！”というお墨付きのドライバーを手に入れたのである。宗旨変えをして、道具の信奉者がここにまた一人増えることになったのであるが、それでもゴルフはやめられないのである。

なお、発症から24カ月を経た今は、もちろん首輪なしでプレーをしていることを申し添えたい。